上野動物園　見どころ新聞

ZOO TODAY

6月号

（No.500 2026年6月2日発行）



～創刊500号記念号～

東園では



シロテテナガザルの子の近況…①

昨年8月生まれの子の名前は「コンコン」に決まり、性別はオスと判明しました。
5月下旬現在、以前より母親から離れて自由に行動したり、葉を口にふくんでみたりすることが増えてきました。少し離れたところへ移動するときはまだ母親のお腹にしがみつきますが、同じ木の枝と枝の間なら自分で腕渡りをする様子も見られます。また、時折声を出すようになり、おとなが鳴きかわす声に混じって、チィチィという高い声で鳴くことがあります。幼い時期にしか聞くことのできない声です。

鳴いている様子は公式Xをご覧ください➡

あれは何をしているの？～動物のトレーニング～…②



飼育係が餌を与えながら手振りをしていたら、それは動物の健康管理を目的としたトレーニングです。動物に自発的に望ましい行動を取ってもらうことで、ストレスを与えずに体の状態を確認します。ゼニガタアザラシの場合、手のひらに鼻をつけさせた状態で、もう片方の手をあごに添えるとアザラシは口を開くので、歯の状態や炎症の有無などを確認します。上手にできるとご褒美の餌がもらえることで、彼らは少しずつ学習していくのです。口を開いた様子が見られたら、歯の形や餌の食べ方を観察してください。アザラシは魚の鱗やヒレがのどに引っかからないよう、必ず頭から食べます。また噛まずに丸のみするため、歯は同じ形のものが並び、魚をくわえるためだけに使われています。

⁘不定期ですが10：30と15：00頃に1回15分ほど行っています。

ニホンリスの衣替え…③



5月下旬現在、ニホンリスは灰色がかった柔らかい冬毛で、ふわふわのしっぽや耳の上の長い毛がよく目立ちます。これから気温が上がるにつれて、耳の毛は短くなり、しっぽもほっそりとして、体全体が赤茶色の短い夏毛へと変わっていきます。
足先から徐々に生えかわるため、冬毛の部分と夏毛の部分の厚みの違いで、まるで服を着ているように見えることがあります。個体によって生えかわりの進み具合が異なり、耳の毛がまだ長いものから、すでに夏毛へ変わりきったものまでさまざまです。ぜひ、毛の色や長さの違いを見比べてみてください。

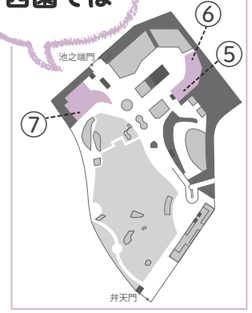
コジュケイのオスとメス…④



コジュケイのヘアが日本の鳥IIからIへ引っ越しました。キジの仲間としては小型ですが、小鳥たちの展示室の中ではひときわ大きく、地面で存在感を発揮しています。春から初夏の繁殖期には、オスの「チョットコイ！」というさえずりに、メスが「ギャッ」と合いの手を入れる“鳴き交わし”でさらに目立ちます。鳴いていないときのオスとメスの見分けのポイントは、足の後ろにある「けづめ」。オス同士の闘いに使われる、キジ類特有の武器です。多くのオスで発達しますが、メスにはほとんどありません。

西園は4ページへ➡

西園では



小獣館地下：丸くなれないアルマジロ…⑤

ツチブタの展示場の一部を午前中のみ仕切って、ムツオビアルマジロを放飼するようにしました。野生では、オスは東京ドーム20個分ほどの広さを行動圏とするという研究もあり、少しでも広いところで探索をさせることが目的です。
ここでは、彼らの走る速さに注目してください。アルマジロといえば丸くなって身を守ると思われがちですが、本種を含むほとんどの種類は丸くなることができません。そのため天敵から逃げるときは全速力で走って茂みや地面の巣穴に逃げ込んでいくのです。また、目は小さくてあまりよくないため、突き出た鼻先でにおいを嗅ぎながら探索する様子もあわせてご覧ください。





アオメキバタン展示再開…⑥

5月中旬より、アオメキバタンの展示が、コビトカバの横で再開されました。展示場には木が重なるように組まれており、2羽のアオメキバタンはよくその上を行き来しています。そのときにせひ足に注目してみてください。一般的な鳥は3本の指と1本の指を向かい合わせて木の枝を握ります。しかしアオメキバタンなどインコ類の足は、前後2本ずつの指が向かい合っています。そのため枝をよりしっかり握るだけでなく、よじ登ったり、さらに餌を持ったりと、まるで手のように器用に使うことができます。

両生爬虫類館：昼活動するヤモリ、夜活動するヤモリ…⑦

4月末から大温室内のドクトカゲの向かい側で2種類のヤモリの展示を開始しました。この2種は活動する時間帯が異なり、それが瞳孔の形に表れています。昼行性のグランディスヒルヤモリの瞳孔が丸いのに対し、夜行性のトッケイヤモリの瞳孔はネコの目のように縦長です。実は縦長のほうが瞳孔の収縮幅を大きくすることができるので、明るい昼は狭めて光量を抑え、夜は広げてよく見えるように調節するのに都合がよいのです。



よくある質問

前号アンケートに寄せられた質問にお答えします！

Q. シロテテナガザルの赤ちゃんはお母さんの体にずっと抱きついていますが、お母さんから落ちないように生まれつき腕の力があるのでしょうか？

A. そのとおりです。前足・後ろ足ともに握る力やしがみつく力が発達しています。

シロテテナガザルも含めて、サルの仲間はほとんどの種が巣をつくらず、親が子どもを運んで育てます。ところがサルはみな基本的には樹上でくらしており、親たちは手足を木の枝をつかむのに使うため、赤ちゃんを「抱く」ということができません。そこで、赤ちゃんは「自力で」親にしがみつくのです。
サルの足はもともと、木の枝をつかみやすいよう、前後ともに親指と他の4本指が向かい合わせになっています。赤ちゃんはその4つの足を使って、親の毛や皮膚、手足などつかみやすいところをつかんでしがみつきます。その力が弱いものは、生き残ることができません。
ただし、生まれた直後の数日はさすがにまだ力が弱いため、親が手を添えて支える場合も多いです。
なお、サルのなかでも例外的に巣を作るアイアイやエリマキキツネザル、そしてヒトの赤ちゃんは、ふつうのサルよりも握る力が弱いです。それでも、ヒトの赤ちゃんの手のひらを刺激するとキュッと握る反射は、サルの性質の名残りだと考えられています。





＼紙面向上のため、簡単なアンケートにご協力をお願いします／
アンケートに答えた方に紙面掲載動物のオリジナルデータをプレゼント！

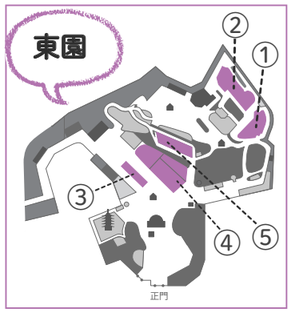
発行：（公財）東京動物園協会　制作：上野動物園
◇無断で複製・転載しないでください　◇紙面に関するご質問等は教育普及係 解説班へ（03-3828-5171）

公式X(Twitter)　公式Instagram

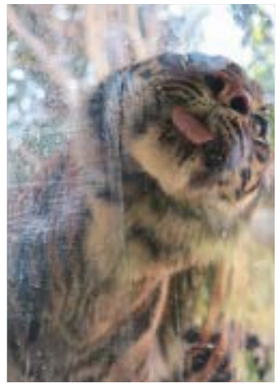
上野動物園　見どころ新聞　ZOOTODAY

500号記念特集 わたしのおすすめ！ここが見どころ写真展

おかげさまでZOOTODAYは今月号で500号を迎えました。
ここでは、読者の皆さまから募集した、自分がおもしろいと感じる動物の体つきや暮らしぶりなどのおすすめ観察ポイントとその写真をご紹介します。



スマトラトラ…①



トラがガラスに近づいてきて何やらやっているのを見たことがありますか？これは「ファンサ」ではなく、ほかの個体がつけた「においを確認」しているのです。ガラスが汚い！と思うかもしれませんが、汚れたガラスの前で待っていれば近くまで来てくれるかもしれません。

（のひ）



ニシローランドゴリラ…②

足で器用に竹筒をキープしながらドラミング！
ドラミングはグーではなくパーです！

（まふ）

編注）ドラミング：前足で胸をたたく、ゴリラ特有の感情表現

ジェフロイクモザル…③

長いしっぽは第５の手ともいわれるくらい自由自在！把握力があり、巻きつけて物を握ったりつまみ上げたり、しっぽだけで木にぶら下がることもお手のもの。その秘密はしっぽの先の内側にある尾紋！毛がなくシワになっていて、これによりしっかり物をつかむことができます。見る人を釘付けにするクモザルのしっぽ使いにご注目！

（サル推しはっぴー）





アジアゾウ…④

おとなのゾウが外で横になって休むのを初めて見ました。体色が砂の色に同化しているところや、２頭くっついて横になっているのも面白い！しかも、よく見ると目が開いていて・・・起きています！

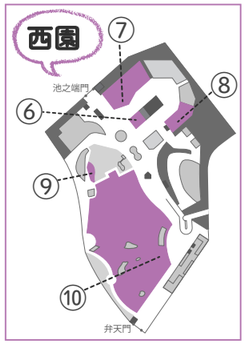
（ゆきもも）



エゾヒグマ…⑤

エゾヒグマの毛の生えていない足の裏。同じクマでもホッキョクグマやジャイアントパンダは足の裏まで毛がふさふさなのに、エゾヒグマは足の裏にほとんど毛が生えていないのが、冬の暮らし方の違いを考えさせられて面白いです。

（へそ）





ハシビロコウ…⑥

動かない鳥といわれるハシビロコウですが、見るとけっこう動いています。写真のように飛んでいるときもありますので、辛抱強く観察してみて下さい。

（housa.max.8690）



キリン…⑦

キリンの舌は黒くて長く、木の枝などを舌で巻き込みます。

（ふたば）



ケープハイラックス…⑧

ゾウに近い仲間といわれているケープハイラックス。足の指にはゾウと似た爪が見えます。ずんぐりとした愛嬌のある体型とは裏腹に、不安定な場所でも抜群の安定感を発揮しているところに岩場でくらすケープハイラックスらしさを感じられます。

（まりっど）



クロシロエリマキキツネザル…⑨

樹上生活者なので高いところはお手のもの。放飼場の天井に渡された細い棒をさっそうと動き回る様子は見応えがあります。特に雨上がりには、雨で流された自分のにおいの上書きのためか、放飼場のあちらこちら、そして天井まで行くことが多いです。雨上がりはおすすめです。

（まろー）



ウグイス（野鳥）…⑩

園内にはたくさんの野鳥もいます。その中でウグイスは、里山や自然公園などでは鳴き声がしても姿を見つけることが難しい鳥です。しかし動物園内のウグイスは人の気配に慣れているのか、わりと姿を見せてくれます。不忍池の枯れ薮の中からチャ・チャ・チャと鳴き声が聞こえたので、距離をとりそっと見守ると水を飲みに出てきてくれました。

（おっとシャン）

こちらで紹介できたのはごく一部で、多くの皆さまにご応募いただきました。どの投稿も動物のおもしろさがよく表現されており、１０編に絞るのに大変苦労しました。応募してくださった皆さまありがとうございました。
ZOOTODAYは１９８８年3月20日に創刊してから３８年以上が経過し、今月号で500号を迎えました。
これからもZOOTODAYは「今」の見どころを通して、動物の興味深さやすばらしさを発信していきます。
皆様の動物観察のお役に立つことができれば幸いです。
今後とも、上野動物園およびZOOTODAYをよろしくお願いします。
紙面に掲載された方にはささやかなプレゼントがありますので、
東園の総合案内所２階「動物解説員室」にお越しください。

上野動物園　教育普及係　解説班